

農業を職業に

どうしたら農業者になれる？

私たちの「食」を支えている農業経営者は、代々農家を継いでいる人ばかりではなく、農家以外から新たに農業を始めた方もたくさんいます。本号の特集では「農業を支える人々」をご紹介しましたが、職業として「農業」に興味が出てきた時にどうしたらよいかをご紹介します。

新規就農者の状況

道内で新たに就農した新規就農者は、平成30年(2018年)は529人で、農家出身の「新規学卒就農者」と「Uターン就農者」の合計が412人であるのに対し、農家出身ではない「新規参入者」は117人と全体の約2割を占めています。

また、新規参入者の就農時の年齢は全体の約9割が50歳未満で、出身地域別では6割が道内、1割強が関東出身です。これまでに農業へ新規参入された皆さんは、自らの経営を発展させるだけでなく、地域のリーダーとして活躍されるなど、本道農業の担い手としてなくてはならない存在となっています。

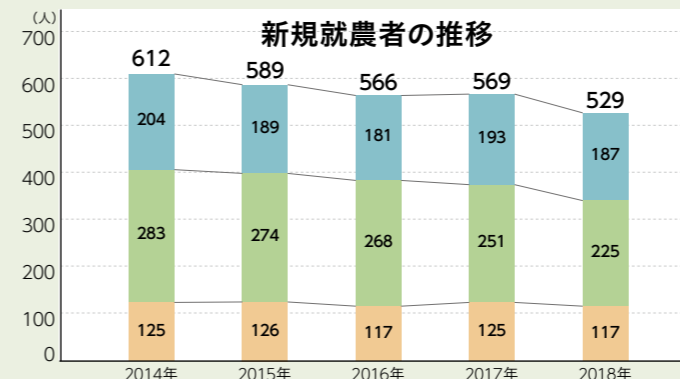
農業を始める第一歩

農業に興味が出てきたら、道内の就農相談の窓口である北海道農業担い手育成センター(事務局(公財)北海道農業公社)に相談してみましょう。

農業に全く触れたことのない方から農業経験のある方まで、相談者の状況に応じて、就農相談会・農作業体験会などのイベント情報や、研修先などの道内各地の就農に関する情報を紹介してまいります。

また、就農希望地を決めている場合は、その地域の担い手育成センター(事務局 市町村・JA等)が相談に応じます。

なお、新規参入の方法としては、①農業経営者になる「独立就農」と、②農業法人や個人農家の従業員として就職する「雇用就農」があります。経営者と従業員では、就農までの準備や必要資金等に大きな違いがありますので、どの地域でどのような農業をしたいのか、独立就農か雇用就農かなど、自分が目指す就農のイメージをよく検討することが大切です。



《新規就農者の区分》

- 新規学卒就農者** 農家出身者で学校を卒業後直ちに、又は、卒業後に研修を経て就農した者
- Uターン就農者** 農家出身者で他産業に従事した後、就農した者
- 新規参入者** 農家以外から新たに農業を始めた者



就農に向けた支援

こうした情報収集や相談・体験を通じて農業を始めることを決意された後、実際に農業経営を始めるまでには、就農研修や就農準備など、一般的には数年の期間を要し、資金も必要となります。

そのため、就農前の研修や就農直後の経営確立を支援する「農業次世代人材投資資金」や、機械・施設の整備を支援する無利子の融資制度「青年等就農資金」などの支援制度が設けられています。

道ではこうした国の支援制度も活用しながら、就農に至る各段階で新規参入者を支援しています。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、人々の働き方や価値観が変わりつつある中、農村への移住に関心を寄せる人が増えてきています。北海道の農業や農村に魅力を感じ、職業としての農業に興味を持ったら、まずは相談してみたいかがでしょうか。

※国の支援制度については農林水産省HPを参照 https://www.maff.go.jp/j/new_farmer/syunou_shiensaku.html

就農までのステップ



※出典：『新規就農のためのガイドブック』(北海道農業担い手育成センター)

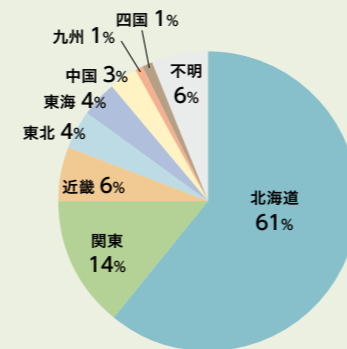
北海道農業担い手育成センター

住所 札幌市中央区北5条西6丁目1番地(北海道通信ビル6階)
TEL 011-271-2255 FAX 011-271-3776
URL <http://www.adhokkaido.or.jp/ninaite/>

主な農業体験・就農相談会など

新・農業人フェア http://www.maff.go.jp/j/new_farmer/
北海道就農フェア、週末農業スクール <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/kei/>
就農相談・セミナー <http://www.adhokkaido.or.jp/ninaite/>

新規参入者の出身地 (2014~2018年累計)



新規参入時の年齢 (2014~2018年累計)

